

ほとけの 混和会だより

平成二十六年一月

東光院

仏の混和会

第101号



平成二十六年元旦

檀信徒各位様に於かれましては、幸多き新春をお迎えの事とお喜び申し上げます。又昨年は何かとお世話に成りました。心より御礼申し上げます。

本年度も仏心の会得と共に生きる環境の構築に努めてまいりたいと存じます。どうぞ、ご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願い申し上げます。

合掌

昨年は、皆様と共に様々な仏道を精進させて頂き、とても有意義な年と成りました。お陰様で平成二十六年の正月も無事に迎える事が出来ました。誠に有り難い事と存じます。

叔、正月と言うと神道の行事で、お盆は仏教の行事と思われている方が多い事とされます。現代の生活習慣からすれば無理はありますが、じつは江戸時代以前は「神仏習合」とか「神仏混淆」などと呼ばれて、仏教と神道とが融合調和して一つに成って居ました。

したがってこれは仏教の行事で、これは神道の行事と分けることができなかったのですが、明治政府は天皇を現人神とする国家神道を作る為に、神仏習合を否定して、神道を仏教から独立させることにしました。これが俗に「廃物毀釈、神仏分離」と呼ばれるものであります。

よって正月の行事が意味不明のものに成ってしまいました。そこで、正月とは何なのか正月をどのように迎えたら良いのか改めて考えて見たいと存じます。以前にもこの書面にて紹介したかと思いますが、正月、じつは「正月様」が各自の家に戻ってこられる日なのです。

この正月様とは「若年様」とか「年神様」とも呼ばれ、実体は各自の家のご先祖様の集合霊なもので成ってしまいました。そこで、正月とは何なのか正月をどのように迎えたら良いのか改めて考えて見たいと存じます。以前にもこの書面にて紹介したかと思いますが、正月、じつは「正月様」が各自の家に戻ってこられる日なのです。



ねーねーお坊さん
このお便りも、
第一〇一号、
新たなスタートですね、これから
も宜しくお願ひします。



こちらこそ、
宜しくお願ひします。
ここまでやってこれたのも君のお陰じゃ、
本当にありがとう。

今回は、新たなスタートとして、
仏教の教えを基礎から順に学んで
行こうと思ふのじゃよ、
そこでこの第一回目は、「仏とは
何か」と言う事から始めるね。

仏様と言うと、亡くなられた
人かを思い浮かべる人が多いと思
うのじゃが、仏様とは、大自然、
大宇宙の真理に目覚めた人や、
大宇宙そのものを言うのじゃよ。

仏教の発祥の地インドでは、こ
の真理に目覚め悟りを得た人を
「ブッダ」と言い、ブッダを「仏陀」と
漢字に記し、仏陀の仏だけを
取って、日本では仏様と言ったの
じゃよ。一口に悟りと言いつても、
低いさとよりから高い悟りまで、
五二の位があり、これを「悟り
の五二位」と言っているのじゃ
よ。この最高の悟りの境地を会
得された人は、二五〇〇年前に
実在された、インド釈迦国の王
子、「ゴータマシッダールタ」ただ一人
のじゃよ。だから王子を釈尊と
称え、釈尊が仏陀であり、仏陀
を仏様と言っているのじゃよ。



昨年、日本は元よりフィリピンなど、各国で台風による水害や竜巻、又ゲリラ豪雨などと未曾有の災害が多発し暗いニュースが続きましたが、2020年、東京オリンピック開催の確定と共に、暗い思いは一変し、清水寺の森清範貫主が、2013年の漢字として「輪」と書き上げました。

災害に見舞われた人々を忘れてはいけません、一時でも心とお腹いでした。

しかし、ネット上で、この「輪」に対する人々の思いを聞いてみると「今の人間社会に輪なんて存在しないだろ」、などと冷ややかな言葉が飛び交っておりまして。昨今の孤独社会に於いての正直な言葉かと思ひます。

「輪」「和」「絆」これらの文字に対する思いは、現在は大変おろそかにされて居るのが現状で、今、最も大切にしなければいけない文字かと思ひます。又人々が痛切に求めている願望かと思ひます。

東光院と致しましては、「輪、和、絆」この漢字は、その二年の文字として無く永遠の課題として勤めてまいりたいと存じます。

平成二十六年年度の課題は「和と輪の構築」と定め、精進してまいりたいと存じます。

平成十一年の秋、数人の人が月に一度集まり、仏の道を求める会ができました。

その会は、大変良く仏教を勉強されたお話のじょうずな人や、お酒の好きな人、更に冗句の好きな人や無口な人、様々な個性の持ち主が集う会でした。そこで、この会の名前を何とするかと議論になりました。

そのころ宗教界では、「みんな違って、みんな良い」と言う言葉がはやり言葉と成っておりまして。要するに、それぞれの個性や性格みんな違って、共に尊重し合うことができれば尊い和ができますよ、と言うことなのです。

そこで、様々な個性や能力の持ち主が混じり合い、共に尊重しながら集うことができれば、大きな和と成るのではと思ひ「混和会」と命名致しました。本年度は、この「和」が、「輪」と成って、共に生きる大きな絆と成るよ精進してまいりたいと存じます。

『節分会』

二月三日(月曜)
午後三時より



招福を祈念して、豆まきを致します。12才、24才、36才、48才、60才、72才、84才、の年男、年女の皆さん、福を巻いて徳を積みましょう。皆様の御参加、お参り、お待ち申し上げます。
詳細は 東光院 電話 0476(46)2471まで